

**Q1:中東情勢の緊迫化に伴う影響について**

包材（フィルム等）のコストに徐々に影響が出始めている。また、生産工場で使用する重油や電気、ガス等のエネルギーコストの上昇も懸念している。併せて40億～50億円規模のコストアップ要因になり得ると見て、対策を検討している。まずは生産性向上、経費削減などの自助努力で対応し、価格転嫁などは慎重に見極めながら対処していく。

**Q2:阿部新社長が前職の経験などを踏まえて感じている課題等について**

前職では Dole 事業も担当していたが、共通点は食品のコンシューマブランドを持つメーカーである事。当社は継続的にシェアを伸ばせていることが強みであると思っている。一方で、何か課題があった場合に、営業、生産、調達、マーケティングなどの各部門がいかにか有機的に機能して、スピーディーに対応できるかが勝負と考えている。これはどのメーカーも同じ課題と認識しており、今後強化していきたい。その際に適時的確に判断を下していければと考えている。

**Q3:ベンダー子会社のコンビニエンスストアチェーン向けビジネスにおける採算性の考え方と今後の対策について**

現状、原材料高など構造的な課題はあるが、先方とのパートナー関係は盤石。国内で中食をつくる強みが、直近のインフレにより、さらに踏み込んだ商品開発、競争力強化に取り組む必要があるステージに来ている。スピード感をもって魅力的な提案を行い、早期に収益改善を図っていきたい。

**Q4:親子上場の意義やメリットについて**

当社が上場していることで、食品メーカーとしての自由度が確保され、プラスに働いている。加えて、原料調達や海外展開では親会社のネットワーク等を活用できしており、シナジーを出せていると考えている。

以上